

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 212 号 (2024. 10. 1)
事務局 川西地区自主防災会

地域とともに連携した防災活動

栗熊地区自主防災会
防災士 才谷 順一

1 地区の紹介

栗熊地区は、北は讃岐富士の異名を持つ、標高 421.9m の飯野山を望み、南は標高 509.1m の大高見峰、標高 467.7m の猫山、標高 375.1m の城山である綾歌三山に抱かれた田園地帯で香川県の扇の要に位置します。また、大雨強風等の自然災害を受けにくく、まちの中央には高松・琴平を結ぶ、国道 32 号線と琴平電鉄が走り交通の便も良い、住みやすいまちです。

令和 6 年 7 月現在人口 2,410 人、世帯数 847 戸、自治会数は 47 自治会となっていますが人口の減少・高齢化が進んでいます。

2 栗熊地区自主防災会沿岸

栗熊地区自主防災会は、平成 20 年に発足し、平成 25 年 3 月、監修：栗熊コミュニティ、協力：校区連合自治会、小学校 PTA により栗熊地区自主防災会は、地区防災マップを作成されました。私は平成 30 年 4 月より栗熊地区自主防災会の会員として防災に関わり、8 月に実施された栗熊地区自主防災訓練より、被害が最小限に抑えるためには、地域の住民と助け合って協力することが、今後の訓練に防災士として活用されると期待し活動して参りました。

3 防災担当者の選出及び避難場所の見直し

令和 2 年 11 月に各自治会における防災担当者正副 2 名を選出し、一時避難場所の見直しについて役員会において提案し、各自治会で協議・検討を依頼し報告・提出してもらった。令和 3 年度より新しい防災担当者による体制が整い、防災マップの見直し、防災担当者の役割について進めていきました。

役割については栗熊地区自主防災会との連絡・連携・災害時における自治会内の安否状況や避難状況の把握をすることにより訓練・災害時に対応し活動します。

4 防災研修会

- (1) 毎年度に 1 回は、コミュニティセンターにて部外講師により各演題により講演を依頼し、近々起こるかもしれない、災害に備えるための具体的な話を、また、直ぐに出来る日頃の小さな準備が大事かを考えさせられる講演を依頼しています。
- (2) 令和 2 年 1 月栗熊コミュニティセンター講座室にて、香川県防災士事務局長、高橋真理先生を講師に招き「災害を知る、そして備える」を演題で近く起こるかもしれない災害に備えるためのわかりやすいお話でした。
- (3) 令和 3 年、令和 4 年はコロナにより中止。

- (4) 令和5年1月香川大学の長谷川修一特任教授を招き「栗熊地区の防災計画を作ろう」をテーマに研修会を開催し、今後南海トラフ地震は高い確率で発生すると言われ、その為には自助・共助・公助が連携して防災力の向上が必要不可欠であります。後半は、地区別に分かれて、地震災害・豪雨災害について栗熊地区の弱み・強み・自助・共助・公助の特性と対策を検討して、防災計画の作成に役立てることが出来ました。



- (5) 令和6年1月コミュニティセンターで「地域・家庭の安全対策」をテーマに防災講演会を香川県防災士事務局長、高橋真理先生を講師に招き、自治会の防災担当者と自治会関係者が参加し、自宅で災害時に予想される被害について話し合いました。その後、リビングと寝室での安全対策や普段からの準備物など災害に備えるための具体的な対策について講師から自身の体験、経験を交えながら説明がありました。

5 栗熊地区自主防災訓練

- (1) 平成30年8月栗熊校区防災訓練を小学校の体育館及び校庭（グラウンド）にて、応急処置、初期消火、土嚢訓練、造水機の取扱い、炊き出し訓練を実施、また、消防団第14分団の操作法訓練展示を見学しました。
- (2) 令和元年10月栗熊地区防災訓練が台風接近のため中止となり、栗熊小学校親子防災訓練に変更し授業参観の後、栗熊自主防災会と消防団による防災訓練に変更しました。南海トラフ地震が発生したときの被害と対策についてDVDを見て学習し、消防団第14分団の隊員の指導で毛布と竹竿を使って応急担架を作り担架に乗って体験をした。また、段ボールのパーテーション（間仕切り）を組み立て、避難所の設営について学び、親子で災害に備えた有意義な訓練を実施、する事が出来ました。
- (3) 令和2年9月コミュニティセンター内で、新型コロナウイルス感染防止の観点から、役員と丸亀市職員で訓練を実施。重要な避難所開設手順を丸亀市のマニュアルに添いながら避難所内の配置・避難名簿、パーテーションの組み立て、トイレの使い方などを訓練、防災資材庫の備蓄状況の確認把握を実施また屋上に設置した、アマチュア無線のアンテナを使い栗熊、富熊、岡田コミュニティセンターのアマチュア無線通信協力会会員により丸亀市役所に待機中の会員に状況報告し自衛隊要請などの通信訓練を行った。

- (4) 令和3年11月コミュニティセンターにて栗熊地区の自治会を3グループに分けて避難所訓練を実施。1回目で16自治会から防災担当者及び小学生と保護者、自主防災会により避難訓練を自宅からコミュニティセンター（指定避難場所）まで経路の安全を確認しながら徒歩で避難、コロナ禍での感染症対策のため、避難者の間隔を保ちながら検温等をして受付を実施。避難所にてパーテーション、段ボールベッドの組み立て、簡易トイレの組み立て使用方法の確認を実施し、避難所運営訓練により参加者の防災意識の向上を図った。
- (5) 令和4年2月予定もコロナ禍の為延期する。
- (6) 令和4年5月コミュニティセンター内にて自治会の2回目を前回と同じように、今度は参加自治会15自治会に地図を渡して避難経路上の危険箇所を記入してもらった。訓練内容は1回目と同じ避難所運営訓練を実施しました。
3回目は6月に小学校の体育館にて実施し、参加自治会16自治会に自宅より徒歩で地図により危険箇所を記入してもらい、訓練内容は体育館内での避難所運営訓練を実施し参加者の防災意識の向上を図った。
- (7) 令和5年9月秋晴れの中、栗熊小学校の体育館内、校庭グラウンドにて栗熊校区自治会より子ども達も一緒に参加した。訓練は8工程実施。日本赤十字社香川県支部より支援を受け、飯山高校看護科生徒に手伝ってもらい、救命処置・応急手当の要領及び手順を実施した。初期消火土嚢作り、ロープワークの1・2、造水機の取扱い、炊き出し訓練を次々と実施した。
- (8) 令和6年3月コミュニティセンターにおいて各自治会正副担当者と役員による訓練を3項目で実施。心肺蘇生とAEDの使用方法には日本赤十字社香川県支部の多田主事他3名により、指導・使用方法を教わりながら実施した。傷病者の搬送法では、毛布を使った担架により患者の搬送を訓練し、簡易トイレを組み立て、使い方や使用方法について訓練、凝固剤のテストを行い処理要領等、皆さん熱心に取り組んだ訓練でした。



6 栗熊地区防災計画の策定事業計画

- (1) 令和4年7月6日、検討委員会の設置及び開催
- (2) 令和4年7月30日、防災まち歩きを開始。南海トラフ大地震・大雨によるため池決壊など大規模災害発生時における安全・危険箇所を見つけるために地元自治会の方々の協力を得て「まち歩き」により地区の総点検を始めました。
- (3) 令和4年10月2日、東大東川の流域を当該自治会長・自主防災会・コミュニティ役員で歩いて周り、特に以前、大雨で水の溢れた危険箇所について地元住民にも話を聞き状況の把握に努めました。

- (4) 令和4年11月13日、中大束川の流域を当該自治会長・防災担当者・自主防災会で歩いて周り、過去に大雨で被害があった付近では、地元住民の話を聞き、水路の中に大木が生えて、水路を塞ぐ状態になっているので早急な対応が求められた。後日、市の担当者に対策をお願いしました。
- (5) 令和4年12月、まち歩きを実施・調査の結果からハザードマップの作成にあたり見直し、香川大学の長谷川修一特任教授からも最近の気象状況から百年に一度、千年に一度起きるかもしれない災害について再検討するように指示を頂きましたので、今後の避難経路設定に生かして行ければと準備しました。



- (6) 令和5年1月、栗熊地区防災計画を策定、ハザードマップを更新。
- (7) 令和5年3月、栗熊地区防災計画が完成各自治会に全戸配布しました。
- (8) 令和5年5月、栗熊地区避難所運営マニュアルを作成し、自主防災会組織の役員メンバーの長に配布しました。

7 防災教室の開催

毎年5月に栗熊コミュニティセンターにて各自治会の正副防災担当者、栗熊防災士の会、本部役員等に新しく完成した栗熊地区防災計画冊子について地域密着型の防災計画である事を理解してもらい行動することにより訓練・災害時に役立てるように開催を始めました。

8 栗熊地区自主防災会表彰

令和6年7月19日、香川県社会福祉総合センターコミュニティホールにて県民防災週間2024シンポジウムが開催され、自主防災組織への知事感謝状贈呈式があり県下では丸亀市の栗熊をはじめ高松市の2地区が選ばれ池田知事から感謝状を頂きました。

これも防災の取り組み、地区防災計画の策定、防災事業を定期的に行ってきた活動が評価されました。栗熊地区自主防災会は今後も地域とともに防災活動に取り組めます。



事務局だより

令和6年 10 月

- 1 第 15 回目をむかえた県立丸亀高等学校の防災訓練を地元の丸亀城西地区自主防災会と合同で 9 月 27 日(金)に実施、訓練には、1 年生 7 クラス 281 名が参加、30℃を超える中、2 時間を少し超えて 7 種目のカリキュラムを実施、学生たちは元気に取り組んでいました。

アドバイザー役の自主防災会の皆さんには、どのような内容をしっかりと学んでもらうことが災害時に役に立つのか！指導者としてのコンセプトを明確にした取り組みが必要であります。アドバイザー役を指導する私共の不備があったのではないかと反省しています。種目別に大切なポイント集を作成し、より内容の充実した訓練を目指したいと思っています。



- 2 夜間避難訓練を 1 月下旬から 9 月下旬に変更して、9 月 28 日(土)19:00 から丸亀市危機管理課課長の避難指示を合図に実施しました。川西地区自治会より 481 名が参加しました。

人口 7,000 人の地域、避難所 6 か所を限定、市役所⇒地域の対策本部(コミュニティセンター)⇒各自治会長へと情報を行い、それによって住民が避難を行うこととしています。(今回は巨大南海地震によってすべてのため池が決壊のおそれという想定により実施しました。)

